

平成 29 年 度

事 業 実 績 報 告

(総括)

社会福祉法人

泉 寿 会

# 特別養護老人ホーム・ケアハウスいずみ苑

## 平成28年度事業報告内容・総括

### 【 総 括 】

今年度の稼働率 89.9% (平成27年度より7%アップ)

平成29年4月より新入社職員が4名入職し、特別養護老人ホームいずみ苑には、管理栄養士が配置されるております。年度中の退職者は1名（めまい等の体調不良の為）おりましたが、比較的職員体制は落ち着いておりました。又、育児休業は4名の職員が使用しております。育児休業による職員不足の対応としては、派遣職員を12月より採用する事で職員不足は解消しております。※平成30年4月より3名育児休業終了し、現場に復帰しております。

今年度は、既存の職員の育成の場として、特別養護老人ホームいずみ苑にて2名の職員の異動を受入れしております。2名に対しては個別の育成プログラムを作成し、業務の見直し・介護技術の再確認等を行っており、現在は通常の職員と同じ業務を行う事ができるまでに成長しております。

今年度は2度のインフルエンザ発生により11月よりB型、2月よりA型が施設内で流行し、計48名の入居者様が発症しております。保健所・千葉市介護保険事業課へ連絡し、行政の指針にのっとりた報告・対応をしております。インフルエンザが原因による重症化による入院や死亡はありませんでしたが、インフルエンザが流行している期間の新規入居者の受け入れを中止していた為、稼働率の低下につながったと考えられます。

今後は、既存の職員や中途職員の教育（再教育）の場として、いずみ苑が機能するように外部研修に力をいれ、指導力・介護技術力の向上を目指していきます。

### 【 ケアハウス総括 】

今年度の入居者状況ですが、介護が必要とされる入居者が増加傾向にあり通院回数が増えております。又、難病を持たれている入居者様も出てきており、急遽体調をくずされ入院になるケースも出てきております。受診等は職員が送迎を行い、病院までの付き添いを行っており、入居者様より安心して受診できるとの声が多く聞かれています。

ご入居者の退所理由として、利便性よい立地にある施設へご移動されるケースが増えてです。入所の希望理由としては、法人として特別養護老人ホーム・介護老人保健施設、又病院も系列であることで、自身に介護度がついてケアハウスでの生活ができなくなっても、他施設で生活が送れることが理由としてあげる方が多くなっております。

今後も、ご入居者様が安心して生活がおくれるように、支援していきながら、入居者様の状態に変化があった場合に法人全体で行き場所が無くなる事が無いよう対応してまいります。

# 特別養護老人ホーム 小倉町いずみ苑

## 平成29年度事業報告内容・総括

### 【 稼働率 】

29年度は、新規入所者27名（長期17名 ロングショート10名）退所25名（長期18名 ロングショート7名）と前年度に引き続き入退所の多い年でした。また、入院者も多く36名の入院となっており、30年1月からは、開設後初めてのインフルエンザの発生もあり、短期入所の受け入れを一時中止するなど、大きな稼働率の低下となりました。

29年度稼働率 92.9% 1日の平均利用者 55.7人 となっています。

### 【 特養総括 】

29年度、職員の部分では、常勤職員2名の退職となっており、昨年引き続き職員の出入りも少なく安定していました。介護職員も経験のある職員だけでなく、介護の経験がない職員の採用もあり、直ぐに介護の仕事を行うのではなく、サポート職員から仕事に入ってもらったり、中途の介護職員採用時には、車椅子等の各講習等を行う事により、その人に合わせた業務形態や職員教育にも力を入れました。

定期的にユニット内の職員のローテーションを行う事で、各ユニットの情報を施設全体で共有し、介護技術の向上にも繋がりました。

30年1月には、開設後初めてのインフルエンザA型の発生があり、短期間の間に24名の利用者と職員2名が感染し、終息するまで1ヵ月近くの期間を要しました。

外部の関りとしても、ボランティア、実習、地域、インターン等多くの団体の受け入れを行う事ができました。福祉を知らない方に「福祉を知ってもらう活動」として、就職等にも繋がる様に、受け入れや地域への活動も行って行きます。また、多くの職員が研修生や実習生などの対応を行う事で、施設職員の指導力も向上しています。

# 特別養護老人ホーム 第2いずみ苑

## 平成29年度事業報告内容・総括

【上半期 平成29年4月～平成29年9月】

3年目を迎え、入居者様・職員共に落ち着いて生活できるような環境になり、各ユニットの特色が出てきています。前期は特に入居者様の体調不良も続き入院する方が多く、新規入居者様を順次受け入れてはいたものの、稼働率は横這いの状態になっています。

【下半期 平成29年10月～平成30年3月】

11月より長期枠80床の内、5床を空床利用としてショートステイをスタートすることができました。新しい体制に戸惑いながらも、試行錯誤しながら各部署と協力しながら開始しました。

第2いずみ苑で初めてインフルエンザ発症者が出ており、地域も含め大流行した関係上、年末からの面会規制から始まり、一時入所受け入れも難しい状態となり稼働自体伸び悩んだ結果となりました。

### 【特養総括】

3年稼働してきた事もあり、第2いずみ苑の生活に慣れ、落ち着いて日々を送ることができています。ショートステイの開設をすると共に、法人内での老健施設より、入所中の入居者様がレベル低下により、特養希望者も多く、今年度は7名の方を受け入れることができました。

入所後に亡くなる方も多く、17名の方が亡くなっているため、稼働率は、横這いの状態になっています。前述の通り、後期で初めてインフルエンザ発症者が出ており、稼働自体伸び悩んだ結果となりました。しかし、感染症拡大防止に注力したこともあり、断続的に苑内での発症が確認されましたが、数名程度に抑える事が出来、インフルエンザ等での入院・退所者はおらず、現行の入居者様には安定した生活を提供することが出来ました。

今年度は、地域交流スペースを活用し、「いずみ苑マルシェ」（苑内購買所）や、千葉市立高等特別支援学校の生徒さんの作成物の販売や、清掃実施やボランティアさんによる演奏会実施をし、苑内でも楽しんで頂けることができました。反面、感染症等の状況も重なり、外出の機会が減ってしまった為、次年度は、季節を感じられるような外出の頻度を増やし楽しんで頂けるよう進めていきます。

職員については、固定職員同士の意見交換は行えていても、他のユニット同士では連携をはかり、コミュニケーションができていない現状です。ユニットリーダー・サブリーダー同士から、話す時間、情報共有できる場を増やし進めていきます。報告・連絡・相談の「ほうれんそう」と、怒らない・否定しない・助ける・指示するの「おひたし」を職員同士で大切にしていきたいです。そして、一人一人目標を掲げ、人としての質の向上を目指し、研修や苑内勉強会へ引き続き参加し、考え方や臨機応変に柔軟に対応できるように努めていきます。

30年度第2いずみ苑では、泉寿会理念を元に、入居者様、職員が安心・充実・楽しい生活が送れるよう全ての部署と協力し合い、取り組んでいきます。そして、ショートステイ20床の開設をし、法人施設とも連携をはかり、入所受け入れを積極的に行い、全体稼働率90%を超えられるよう目指します。

# 介護老人保健施設 いずみ苑リハビリケアセンター

## 平成29年度事業報告・総括

### 【 上 半 期 】(平成29年4月～平成29年9月)

上半期平均稼働率：89.2%

前年度より引き続き新規入所者の受け入れに力を入れ稼働率アップを目指し柔軟に対応ができました。

職員の退職者が続きましたが、職員のバランスを考え、職員のフロー移動と業務の見直しを行い、稼働率アップが出来ました。

### 【 下 半 期 】(平成29年10月～平成30年3月)

下半期平均稼働率：89.7%

引き続き介護職員の退職・異動が続きましたが、職員の協力体制を強化しながら、人員不足に対しては、派遣職員、夜勤専従の導入を行い10月～12月にかけては90%以上を維持することが出来ました。

中田町・小倉町・第2いずみ苑との連携、協力体制も順調でした。

### 【 総 括 】

平成29年度は前年度に引き続き稼働率アップを目指す年となりました。90%を目標にしましたが、体調不良者が多く入院による退所と多くの長期入所の方を法人特養施設へ入居していただいた年となり、あと一步の所で目標を達成することができませんでした。前々年度83.3%より6.3%のアップとなりました。又、在宅復帰は1名おられました。

前年度は、退職者が多くおりましたが、職員で協力し合い、各種行事、料理会、外出等様々な活動を行うと共に、教員免許志願者の介護体験、福士の職場体験の受け入れを行うことができ職員のスキルアップにつながりました。

年間平均稼働率：89.5%

入所・退所に関しては、居宅・あんしんケアセンター・泉中央病院・医療機関・いずみ苑小倉町いずみ苑・第2いずみ苑・ケアハウスとの連携・協力によりスムーズに行えました。

平成29年度特養入所者数 いずみ苑3名 小倉町いずみ苑4名 第2いずみ苑7名  
他特養3名

次年度も引き続き連携を取り、協力体制の強化、在宅復帰に向けての支援、中間施設としての役割に努めていきます。